

紙面に対する感想文を送って下さい。そこにはお名前と連絡先もお書き下さい。ご紹介は匿名にて行います。ただし、紙面の都合上、短文化します。多数の御意見をお待ちしております。

弁護士の無料法律相談を受付中
詳しくは、080-3010-4522 までお電話を

特集

平成17年9月22日 区議会「一人の会」 一般質問 田中けん



駅前の自転車違法駐輪 ～問題解決の新しい視点～

私は通告に従い質問します。

まずは駅前の違法駐輪について確認します。多田区長はこの問題について、積極的に取り組んでおられます。かつては、その取り組みがテレビで紹介されたこともありました。私は区長の問題解決に向けた姿勢および熱意を評価します。ここでは、この問題解決を徹底すべく、新しい視点からの提案をいたします。

禁煙・人口過密の防止・高速道路の無料化。この三つが日頃、私の訴えている政策の柱です。これらを、大きなテーマで置きかえて言い直せば、健康・住環境・交通となります。このように交通問題は、特に私の興味関心が高い分野なのです。

理想的な交通体系は何か。このような問題意識の中、私は諸外国における駐輪問題の実態について知りたくまりました。しかし、現在の江戸川区では公費負担による議員の海外視察がありません。海外という日本とは違った文化における行政運営を直接学ぶ機会が無くなったことは、江戸川区にとっても大きな損失です。

そこで私は、この損失を補うべく、個人的に海外視察を行いました。そこで見たこと感じたことを議会で報告することにより、区政運営の向上に役立てたいと考えます。

まずハッキリ言えることは、私が行ってきたソウル・バンコク・マドリッドなどの首都において、駅前駐輪とい

う現象がありません。それ以外の数多くの小都市にも行きましたが、駐輪問題は「概念」としてさえ存在しないほど、無いのです。最近、知り合いの女子大生がロサンゼルスに行きましたが、そこにも駅前駐輪という現象がなかったとの報告を受けています。

それではなぜ諸外国では駅前駐輪が問題とならないのか。その理由は、庶民が普段、自転車に乗らないからです。自転車そのものが、町の中に無いのです。つまり諸外国では、自転車を使わなくても生活できるということです。そこで私はバスに注目しました。

まずバス料金についての考察をします。どこの都市でもバス料金は低く設定されています。日本との物価水準が違いますし、回数券の有無や通行距離に応じた料金制の採用の有無など、実質的な負担額について、正確に比べるのは困難ですが、ここはあえて単純化して、バスと鉄道の初乗り料金の比較を試みました。参考文献は「地球の歩き方」です。

ニューヨーク、メトロ(地下鉄)とバスは同額で2ドル(220円)。ロサンゼルス、同額で1.25ドル(140円)。ロンドン、メトロ2ポンド(400円)・バス1ポンド(200円)。パリ、同額で1.4ユーロ(160円)。フランクフルト、同額で0.77ユーロ(100円)。マドリッド、同額で1.1ユーロ(140円)。バンコク、BTS(鉄道)10バーツ(30円)・バス3.5バーツ(10円)。ソウル、同額で800ウォン(80円)。モスクワ、同

額で5ルーブル(180円)。

それに比べ東京、都営バス200円、JR130円、都営地下鉄170円、東京メトロ160円。

このように世界のバスと鉄道の料金比較では、同額もしくはバス料金の方が安いのです。更に、それらの外国の中には、バスを24時間運行させたり、運行本数が日本よりも、もっと多かたりと、利用者本位の運営をしています。

東京のように、バス料金が高く、朝は遅く、夜は早い時間帯までしか運行していない不便なバスはないのです。つまり、それだけ東京のバスは料金的にも、本数的にも使いにくく、諸外国に比べて庶民の乗り物になっていません。

だからこそ、日本の交通体系の中には、自転車という自助努力に頼った交通手段が組み込まれてしまったの

です。駅前駐輪を減らそうと思えば、もっとバス料金を引き下げて運行本数を増やして、自転車利用者をバス利用者に変える努力が必要なのです。

バス料金を下げ、運行本数を増やした方が良いという私の提案は、たった一つの具体例に過ぎません。私が区長に言いたいのは、駐輪場を増やすという、今現在の方法だけではなく、そもそも庶民に自転車を使わせない、少なくとも駅までは、自転車を使わなくても済む別の交通手段を模索することが、重要だということなのです。

駐輪場を増やすだけの対応では、真の問題解決にはなりません。交通問題は、一自治体レベルでの解決が難しい問題であることは承知の上で区長にお聞きします。区長にはそもそも、自転車そのものを減らして問題を解決しようとするお考えはあるのでしょうか。

駅前駐輪問題解決に向けた新しい視点による私のアイデアについて、区長のコメントを求めます。

少子化より人口過密が問題 ～ゆとりある生活空間を～

次に人口問題について取り上げます。区長は、今議会の冒頭、あいさつの中で、我が国における少子化が予想以上の速さで進み、今年度中に人口減少社会になるとの認識を示されました。

その認識は全く正しいのですが、今、人口減少と騒がれているのは、日本という限られた範囲の中だけで見られる現象であります。世界に目を向ければ、むしろ人口は爆発的に増えています。江戸川区も同様に、今後20年間は人口が増え続けていくとのことなのです。

つまり人口の増減とは、対象範囲の設定に大きく影響を受けます。面積比で言うと、世界・日本・江戸川区という大中小があって、中規模面積における日本においてだ

け起きている少子化現象をことさら大きく問題視する必要は無いのです。

私見を述べれば、今こそ日本人は、正常に人口が減ることを甘んじて受け入れるべき時期です。慌てず、騒がず、この事実を静かに受け入れることが肝心です。勿論、本区の子育て施策を私は否定しません。しかし、今はむしろ本区の緊急課題とは少子化にあらず、人口過密にあります。

区内人口を減らし、ゆとりある生活空間の中で区民一人一人が暮らせるようにすることこそ、21世紀の本区における政策課題だと思います。区長の見解をお聞かせ下さい。

区長の答弁

お答えをいたします。

自転車問題であります。いろいろ国によって状況が違いますが、お話しは大変説得力があるようにも思いますが、なかなか難しい問題だと思います。日本人は自転車が好きなんです。率直なところそうだと思います。ですから、長い生活習慣の中で自らの足として定着をしているという実態があると思います。直ちにバスの料金を下げたからといって、そのような転換ができるかどうかということも私にはわかりませんし、またそのバスの経費をどなたが持つかということも問題でありますので、参考として伺っておりますが、率直に申し上げてなかなか難しいご提案ではないかというふうに思います。

人口問題であります。これは国によっていろいろ事情が違っていて、お隣中国では一人っ子政策で一生懸命減らそうという努力をしてまいりました。開発途上国では、増えすぎる人口をどのようにして抑制するかということが大きな課題であります。一方で、ヨーロッパなどは文化レベルを維持する、あるいはその経済力、それを支える経済

力を維持するために人口は増やしたいと、そういう国もありますし、日本はどちらかといえば構造が問題でございまして、ですから数の問題とあわせて、世代構造がどういうふうになっているかということがこれまた一つの大きな問題でありますので、少子高齢化というのは非常に頭でっかちの構造でありますから、これには大きな問題があると、こういうことだと思います。

将来人口が激減して行くという過程の中で、どういう日本の国を想定していくかということとはなかなか難しい問題であります。少なくともこの状況に対応しながら経済力、あるいは文化水準、生活レベル、すべてをやはり著しく低下することなく、維持するというに向けて我々は努力をする、そういうことではないかというふうに思っております。過密の問題もそうでございますが、過密とつまり快適性は裏腹でございますので、快適性が高ければ高いほど過密が助長されるということもございまして。非常に難しい問題であります。少なくとも強力な規制ができる状況にない今日では、私どもも様々な手法によって江戸川区が少なくともあまりに過密化しない、余裕を持ってゆとりある生活が享受できる地域社会、そういうものを極力追求したいと、そのように思っているわけでありまして。

インターンシップ体験報告

2005年7月から9月までの間、議員インターンシップ(一般的意味は、学生が企業で短期間業務を体験すること)として、一人の大学三年生を田中けんが受け入れました。以下、彼女の報告書を掲載します。

私が田中けんさんを選んだ理由は、禁煙対策と都市人口を減少させるというものだったからです。少子高齢化を食い止めようと国が躍起になっている中で、まったく逆の意見で、私とまったく同じ意見を持っておられました。

私の意見は以下のとおりです。国が人口を増やそうというのは一人一人の幸せのためではなく、国力のためなのです。短期的にみれば少子化は高齢者を支える力が不足するという、困難な状態を作り出しますが、長期的に見れば、全体がスリム化し、この問題は時間とともに解決すると思います。そこで問題になるのが国力低下で、それを食い止めるために移民を受け入れなければならなくなるだろうということです。私は人口が減ったら減ったままでよいと思います。国全体のGDPではなく、国民一人あたりGDPに着目すれば、経済大国ではなくとも、世界に通用する「日本人」であり続けられると思います。そのほうが大切だと思います。ですから、少子化より一人一人の幸せのために、人口過密の問題を重視すべきだと思います。

けんさんも同じ意見を議会の一般質問で述べていらっしゃいました。全体と逆行するけんさんの発言は議会の雰囲気を変えましたが、必要なことを言ってくれる本当に貴重な議員さんだと心から思いました。傍聴していて、心が晴れ晴れしました。区長さんも以前よりは、けんさんの意見をわかってくれるようになったそうです。

高速道路の無料化や禁煙や人口問題は、けんさんの政策ですが、その原点は実体験によるものだそうです。有権者が意見を持って議員になったという、政治をするには理想的なパターンだと思います。

インターン生は「情報公開だ」という認識で受け入れていらっしゃいました。だから、けんさんのレシートを全部チェックさせていただきました。いつどこにいて、何をしていたのか丸わかりで面白かったです。もちろん、問題はありませんでした。デニーズやドトールなど、とっても庶民的でほほえましいレシートもありました。

また議員生活とは何もやらなければやらないで、過ぎてしまうからということで、チラシ作りのための行動とチラ

シ配りをなさっていました。本当に6時から駅に立って3時間以上配りました！ 毎日私は出ていませんでしたが、けんさんは本当に江戸川区にいる限り、ほぼ毎日取り組んでいらっしゃいます！ しかもご両親と一緒に。「家族の支えなしには議員生活は送れない」と頻繁におっしゃっていました。また、議員さんが有権者の方々の前に出る有効性も実感しました。有権者の方々にとって話ができる議員さんというのは貴重だと思います。

けんさんとは考察に満ち溢れる会話もたくさんできました。「議員さんだから、交友関係も派手で、私などぞんざいに扱われるのかな」ぐらいの心積もりで臨んだのですが、まったくその逆でした。むしろたくさんの人に会っているから自然な「愛情上手」ぐらいの勢いでした(笑)。一番心に残っているのが、「日本の隠蔽体質」についてです。けんさんの考察では、欧米がキリスト教に見られる「懺悔の文化」で、罪を告白すれば許されるというのに対し、日本では正直に告白しても罰せられるから、無理や隠蔽が生じるのだとのことでした。納得でした。

けんさんのお友達の民主党衆議院議員(当時)「井上かずお」さんの選挙のお手伝いに行って、「羽田孜」元総理大臣をお招きしての街頭演説に参加することができました。残念だったのが、演説内容が小泉首相の批判と、意気込みやら応援やらに終始一貫していたことです。マニフェストも配られましたが、(当たり前かもしれませんが)民主党のものだけなので、民主党の「納得」しかできませんでした。演説も先ほど述べたとおりなので、結局他党との比較もできず、事実も何もわかりませんでした。

議員さんの仕事である議会や委員会は区の職員さんと議員さんのやり取りで構成されていました。議会では議員さんが一般質問をする機会があるのですが、年に4回ある中で、議員さんが全員で46人もいるのに、1回につき10人ほどしか質問をしません。「1年に1回も質問をしない議員は必要あるのか」というのが、けんさんの意見でした。ちなみにけんさんは、ほぼ毎回質問していらっしゃいます。全体的に議員さんの質問の焦点は、子育て支援や介護支援など一貫して「人に資本を」という内容が多かったのですが、ほかにも観点が面白いものもありました。

読者からのお便り

◆前略

十月二十日、西葛西駅で「月刊田中けん」九月号・十月号をいただき読ませて頂きました。

九月号掲載の「公共施設の駐車場は無料化すべき」について。私も全く同意見です。

スポーツセンターを利用して六十二才の男子(私)ですが、今年有料化になつてから、スポーツセンターへの足が遠のきました。

駐車を支払うことに納得できず、「近い人はいいなあ」と人をうらやむ、心の狭いやからとなりました。

活動頑張ってください。

草々

政策よりも性格

選挙になると政治評論家や政治家が「選挙は政策で選ぼう」と言い出す。政策で選ぶことが優れていて、政策以外で候補者を選ぶことが愚かであるかのような「政策第一主義」に、私は反発する。もちろん、政策を軽んじての主張では毛頭無い。「一番」という風潮に反発しているのであって、政策が二番目や三番目ぐらいには重要であることに異論はない。実際に、難しい政策はいくらでもある。そうなると、有権者(私も含め)に政策の良し悪しは判断できない。

しかし、そのような有権者にも、長年つちかった人生経験がある。その経験から、候補者や党首がどのような人物なのかを見抜く力はきっとあるはずだ。顔つきやしぐさなどを見て、直感的な評価を下すことは、さほど難くないだろう。政策とは違う価値基準を持った庶民の投票感覚は、時にインテリの正論以上に上質だと思う。

私は選挙の度に「政策よりも性格。政策よりも性格」と何度でも繰り返してきた。選挙で問われるのは、とどのつまり人間性であって、間違っても政策が一番の選択基準ではない。政策が同じであっても、信用できない人物に私は投票しない。

政策など簡単に着替えることができる。郵政民営化反対だったはずの人物が、一夜にして賛成となる。これが政策の「薄っぺらさ」であり、変わりうる「危うさ」なのだ。政策の「薄っぺらさ」を考えると、誰がそう語ったのか。語り手の性格こそ見た方が良い。

「政策は変わる。されど性格は変わらない」

まさにこれにつきる。正確には、性格とて絶対に変わらないとは言えない。ただ政策との比較論では、「変わりにくい」性格を「変わらない」と言い切ってしまうと、さして問題は無いだろう。

このように「変わりうるものに対して、あなたはどれだけ信用できますか」との問いが私の有権者に対する問いだ。

「もしも信用するならば、変わらない性格を信用した方が良いのではないですか」これが、私の有権者に対する提案だ。

私の問いと提案に対する答えを、多くの有権者から、是非聞かせていただきたい。お便りをお待ちしております。

2005年第4回区議会定例会

2005年第4回区議会定例会の期日が決まりました。

田中けんの一般質問は、**12月1日(木)の15:30頃**の予定です。

めったにはありませんが、まれに急な変更もありえますので、詳しくは、区議会事務局(電話:03-5662-6736)まで確認されることをおすすめします。

訂正

24号の4面の行政情報における記述「しかも区民検診では被爆量が多い関節撮影で行われている。」

- × 関節撮影
 - 間接撮影
- 謹んで訂正いたします。

「月刊田中けん」を買ってください

ただいま「月刊田中けん」は江戸川区内の各駅前で、2ヶ月に1~2回の割合で無料配布しています。これを少し改めて、区民の皆様を買っていただきたいのです。ただし価格は決まっていません。お読みいただいた結果の値付けは、読者にお任せします。たとえ0円でも構いません。

もしお買い上げいただければ、それは田中けんに対する政治献金として処理されます。その場合、法律上、献金していただいた方のお名前と金額については、世間に公表しなければなりません。それでも構わないという読者がいましたら、是非「月刊田中けん」を買ってください。お願いします。

料金振込先

みずほ銀行
小松川支店
1015472
田中けんを応援する会

広告 土地を買います。土地に関する無料相談を受付中。詳しくは、080-3010-4522 までお電話を

高速道路の無料化

禁煙の徹底

人口過密の解消



江戸川区議会議員

田中けん

自宅事務所

〒132-0021 江戸川区中央4-25-14
電話 080-3010-4522
E-mail info@t-ken.jp

プロフィール

1966年 江戸川区生/松江三中卒 墨田川高校卒 千葉大学教育学部卒
○1995年4月 江戸川区議会議員選挙 (2789票・41位)当選
○1999年4月 同選挙 (4282票・16位)当選
●2001年6月 東京都議会議員選挙 (12394票・8位)落選
○2003年4月 江戸川区議会議員選挙 (4103票・15位)当選
江戸川トライアスロン連合会長、ホームヘルパー2級、レスキューダイバー

ホームページからは、田中けんがテレビ出演したときの映像を、動画にてご覧いただけます。 www.t-ken.jp